## 令和元年度第5回 地域密着型介護老人福祉施設 運営推進会議

施設內部研修報告

# 報告内容

講師:福田智子

-10月18日:認知症研修会

•11月15日:感染予防対策【嘔吐物処理】施設内部研修会

目的:認知症への正しい知識・理解・対応を身に付ける。

・講師紹介:砂川市立病院認知症疾患医療センター看護師長・認知症看護認定看護師 福田智子氏





# 研修内容





施設内の各ユニットで発生している認知症による困難症状の事例を持ち寄り、講師に対応の助言を頂く形式で、行いました。

今回はその例を簡単に3件ほど紹介し、頂いた助言を紹介します。





## 事例1

•男性 脳血管性認知症

元々怒りやすい方ではあったが、声を掛けただけで大きな声を出して怒鳴ってしまう。他者の声やテレビの音にも反応し、「やかましい!」と怒鳴る。介助もままならないことがあり、どのように対応するべきか、介護の工夫があれば教えてください。

## 助言

本人の意思の伝達方法が大きな声になっていたり、怒っている様な言動になっていることがある。相手の間合いに合わせて怒っている口調の時には何を要求しているのかを理解する必要がある。(便秘や言葉が出てこない等)

## 事例2

• 女性 認知症の確定診断なし

昼食後、トイレで排泄した後、決まって何度もトイレを訴える。トイレに誘導しトイレから出てきてからも何度も、「トイレお願いします。」と訴えあるが排泄は見られない。トイレに座っていてもずっとトイレを訴えており、今、トイレに座っていることを伝えても、かなり大きな声で叫び続ける。尿失禁はない。気分転換のため軽作業やレク等を促すが、全く行うことはない。この昼食後の決まったパターンに、どう対応すべきか悩んでいます。介護の工夫があれば教えてください。

## 助言

行動や症状から推測して、前頭側頭型認知症が疑われる。この認知症は同時刻に決まった行動をとることもある。座位で過ごすことも疲れがでるので、昼食後、午後2時から午睡をとり身体や脳を良好な状態にすると良い。臥床時に足にクリームを塗布しマッサージで保温すると気持ち良く、身体(腎臓)も温めるとトイレに行く回数も減るかも。

### 事例3

• 女性 認知所の確定診断なし

食事の理解も難しく、口を開けないことが増えてきている。ひっかかったようなむせも多くなってきている。介護の工夫があれば教えてください。

## 助言

注意散漫で食事に集中できない。手 掴みでも食べれる工夫。食べる前に目 で見てから食すと食欲が出る。口唇を 濡らすと食事前準備になる。スプーン 介助の際、上唇を接するように押さえ て介助すると良い。



## 後日談

・事例2の女性の方ですが、後日助言通り午睡の時間を設けて休息したところ、トイレへの執着が軽減しました。また、もう一つの助言であるクリームを塗布してマッサージも試みましたが、本人の拒否により失敗に終わりました。

# 感染予防対策【嘔吐物処理】 施設内部研修会

目的: 吐物処理方法を学ぶことで感染拡大を防ぐための手順を確認、吐物処理に対する意識を高める。【座位編】【ベッド上編】

# 研修内容

去年までは、日中座位での嘔吐を想定した研修を毎年行っていたが、研修後のアンケートで、【ベッド上での嘔吐を想定した研修をしてほしい。】と言う現場からの強い要望があり、今回ベッド上での嘔吐を想定した研修を行いました。









# 感染予防対策【嘔吐物処理】施設内部研修会

【座位編】

## 吐物処理セット

当施設では、あらかじめ1個のバケッに防護用品と処理物品を入れて、吐物処理セットと称して備えています。

まずは、バケツの中に備えている 防護用品と処理物品を紹介しま す。



#### 【セット内容】

使い捨てエプロン、足キャップ、マスク、グローブ(2枚重ね)、新聞紙6枚、ペーパータオル(捨て布)、密閉可能な袋2枚(ジップロック等)、手付きゴミ袋(バケツに2枚重ね用+汚物入れ用として使用)、ペットボトル2L1本、500ml1本(希釈液用)、計量カップ60ml、新聞紙6枚、密閉可能な袋(多め)、ペーパータオル

←のように使い捨てエプロン、足 キャップ、マスク、グローブを全て装 着して、準備完了。

#### 塩素系漂白剤(キッチンハイター)の希釈方法

ペットボトル容量	塩素系漂白剤の量+残り は水で希釈
500ml	塩素系漂白剤 10ml
2L	塩素系漂白剤 40ml

## ①拭き取り1



- ・吐物を新聞紙で覆い拭き取る。
- ・処理を行う際は、規格袋2枚持って実施。(希釈液用と拭き取ったペーパータオルの破棄用)
- 飛散距離を考慮し、外側から内側に向けてふきとる。
- ・規格袋にペットボトル2Lの希釈液を入れてその中に浸した、ペーパータオルを使用する。1度拭き取ったら手持ち回収袋に捨てる。
- ・新聞紙で覆った吐物は新聞紙と共に一次回収袋に捨てる。

## ②拭き取り2



- 一次回収袋の処理方法
- ・吐物が残っていないことを確認し、外側の手袋を脱 ぎ一次回収袋(内側の袋)に捨てる。
- 一次回収袋に希釈液を入れ(しみこむ程度)、2L のペットボトルも捨てる。一次回収袋の中側を触 らないようにして、口をしばる。

## ③消毒



- ・消毒用のペーパータオルにペットボトル500mlの 希釈液を入れる。
- ・ 嘔吐物が付着していた床とその周辺の床を消毒液に浸したペーパータオルで10分程度覆う。(ペーパータオルを浸すのはセットされているビニール袋を使用)
- ・バケツの底も希釈液に浸したペーパーで同時に消毒する。
- ・床を覆っていたペーパータオル等を二次回収袋( 外側の袋)に捨てる。
- 希釈液を入れていたペットボトルを捨てる。

## 4後始末



- ・装着したものを外し、二次回収袋へ捨てる。
  - 1)内側の手袋を外す
  - 2) エプロンが上半分を前に垂らし、表面を丸め込み小さく丸めながら(表面に触れないように)
  - 3)マスクの表面に触れずにゴムを持ち、はずす
  - 4) 足キャップも外側に触れないようにかかとから はずす
- 二次回収袋の内側を触れないように袋の口をしばる。



⇔吐物に見立てて作った お茶寒天。



⇔更に希釈液を染み込ませたペーパータオルで10分間消毒し、その後拭き取る。



⇔新聞紙で吐物を覆い飛散を防ぎ、希釈液を染み込ませたペーパータオルで内側に向かって拭き取る。



⇔拭き取ったら、エプロン、手袋、足カバーの順に取り外し、二次回収袋に捨てる。



⇔覆った新聞紙ごと拭き 取り、一次回収袋に捨て、 希釈液を掛けて、密封す る。



⇔最後に中身に触れないよう、密封して廃棄する。

# 感染予防対策【嘔吐物処理】 施設内部研修会

【ベッド上編】



⇔居室を簡易的に再現 する。



⇔感染者に扮した職員 が、ベッド上で、嘔吐 してもらう。



◇職員は吐物を発見と 同時に擬似感染者にな るため、応援を要請し、 吐物処理セットを持っ てきてもらい1人で処 理を始める。



⇔床に飛び散った吐物を処理 し、10分間の消毒中に感染 者の汚染した衣類を処理する。



⇔感染者を起こし、汚染しているベッドや寝具等を交換、 消毒する。



⇔消毒に使用した物を全て 回収袋に入れて密封、廃棄 する。



⇔最後に感染者を再びベッドに寝かせ完了。

## 反省と課題



### <反省>

一つひとつの手順を理解していない職員 もいたため、研修を重ねて迅速に対応で きるようにしていきたい。

### <課題>

毎年要望で出ていたベッド上での処理方法を周知することが出来た。今後も研修 を積み重ねて全職員への周知・意識の向上に繋げていきたい。

# 次回

•1月17日:事故防止対策・身体拘束に対する理解施設内部研修